

埴輪

『調べようと思った理由』

・学校の図工の授業で埴輪を作ったから。

◎埴輪とは

古墳時代(こふんじだい)の日本特有(とくゆう)の器物(きぶつ)である。一般(いっぱん)的には、土師器(はじき)に分類される。素焼き土器(すやきかわらけ)である。祭祀(さいし)や魔除(まよけ)などのため、古墳(こふん)の埴丘(ふんきゅう)や造り出しの上に並べ立てられた。日本各地の古墳(こふん)に分布(ぶんぷ)している。



土師器(はじき)

◎概要(がいよう)

埴輪は、三世紀後半から六世紀後半にかけてつぐられ、前方後円墳(ぜんぽうこうえんふん)とともに消滅(しょうめつ)した。大きく円筒埴輪(えんとうはにわ)と形象埴輪(けいしょうはにわ)の二種類に大別される。円筒埴輪(えんとうはにわ)、普通円筒(ふつうえんとう)・朝顔形埴輪(あさがおがたはにわ)に分類される。



前方後円墳(ぜんぽうこうえんふん)

◎起源(きげん)

埴輪の起源は、考古学(こうこがく)的には吉備(きび)地方の埴丘墓(ふんきゅうぼ)に見られる特殊器台・特殊壺(とくしゅきだい・とくしゅつぼ)にあるとされ、それから発展(はってん)した円筒埴輪(えんとうはにわ)と壺型埴輪(つぼがたはにわ)がまず三世紀後半に登場し、次いで四世紀に家形・器財形・動物形(にわとり)が出現し、五世紀以降(いこう)に人物埴輪(じんぶつはにわ)が作られるようになったという変遷過程(へんせんかてい)が明らかになっている。

〈感想〉

・私は、埴輪が魔除けなどのために作られていることを初めて知りました。

終わり



造り出し



素焼き(すやき)



円筒埴輪(えんとうはにわ)



形象埴輪(けいしょうはにわ)